Abstract:

アブストラクト（論文・研究速報のみ）は和文，英文に関わらず，英文200語以内で記載する．このファイルは海洋音響学会誌論文投稿に利用するテンプレートである．Microsoft Wordを利用することを前提としている．それ以外のソフトウェアを利用して作成する場合は，本ファイルに準じた表示形式で提出することが望ましい．本稿の内容は海洋音響学会誌投稿規程を抜粋および改編し，査読作業などにおいて効率よく作業ができる表示例を示した参考例である．原稿は投稿規程に従って作成すること．なお，本文サンプルとして記載されている投稿規程は改定されている場合もあるので，必ず**海洋音響学会ホームページに掲載されている最新のものを確認する**こと．

**0. 原稿の体裁**

本ファイルは論文および研究速報の原稿を想定して，作成したテンプレートファイルである．その他の原稿についてもこの形式に従って作成することを推奨する．原稿作成は海洋音響学会誌投稿規程1)に従うこと．

用紙サイズはA4とし，英文フォントはTimes New Roman，和文フォントは明朝体を標準とする．フォントサイズは12 ptを目安とし，1ページ25行程度とする．余白については上左右30 mm，下35 mmを標準とする．行頭には行番号を最初のページから通し番号で挿入し，フッダにはページ番号・主著者名および題目を記載する．題目が長くて1行に収まらない場合は，適当なところで止めて最後に” ...”をつけておく．

（査読用）原稿は，英文アブストラクト→改ページ→本文→改ページ→文献リスト→改ページ→図・写真・表の順に並べ，最初のページから図まで通してページ番号をつける．原稿は１つのPDFファイルにまとめ，電子ファイルで提出する．原稿ファイルの他に投稿用表紙に必要事項を記入する．投稿用表紙は海洋音響学会のホームページより取得できる．

刷り上り標準原稿文字数は1ページ目を除くと，和文では1ページあたり2070字である．本テンプレートを使用した場合2ページで2080字となり，刷り上り原稿のおよそ1ページに相当する．ページ数概算を算出する際の参考にされたい．

次章以降は海洋音響学会誌投稿規程（2022年7月改定版）である．投稿規程は改定されている可能性もある．また，別紙等の情報は記載していない．必ず海洋音響学会ホームページに記載されている最新のものを確認すること．

# 一般的注意

投稿される原稿は，投稿者（著者）の原著でかつ一般に公表（配布または販売）されている刊行物に未投稿のものに限る．

海洋音響学会は海洋音響学会誌を毎年4回（1月，4月，7月，10月）刊行している．なお，論文および研究速報は会誌出版の3ヶ月後に電子ジャーナルJ-STAGE上にも掲載される．

投稿者は本学会の名誉会員，終身会員または通常会員に限る．また，連名者も会員であることが望ましい．ただし，学生が投稿する場合，連名者の1名が会員であることとする．なお，本誌編集委員会からの依頼においてはこの限りではない．

原稿は和文または英文とする．また，提出原稿の構成要素は，投稿用表紙，英文アブストラクト（論文および研究速報のみ）および本文と図・写真・表である．

原稿は本規程9.電子データによる提出の項を参照し，原則としてワープロソフト等で作成する．フォントは，和文：「明朝体」，英文：「Times New Roman」が望ましい．

原稿の長さは，原則として，表1に示した制限ページ以内（図・写真・表を含む）とする．

投稿原稿の種類は，表1のいずれかとする．原稿の種類は，海洋音響学会ホームページから「投稿用表紙」を取得し，これに記入する．

刷り上りの文字数は，和文で1ページ目が約1600字，2ページ以降は2070字（23文字×45行×2段）となる．英文の場合は，約850語（1語平均5ストローク）で1ページとなる．

掲載された内容についての最終責任は，投稿者が負うものとする．

# 著作権

本学会誌に掲載された論文等は，本学会の著作権規程に従って取り扱う．また，著作者が明示されていない場合にも同様に取り扱う．

投稿する論文等に，他の出版物や文献における図・写真・表等を引用する場合は，その出所を必ず明示し，著作権法で定められる正当な範囲において引用することとする．また，正当な範囲を超える場合には，該当する出版物や文献の著作権所有者が定める利用許諾を得ておかなければならない．

# 題名

題名はできる限り簡潔にする．和文投稿の場合でも，和文名および英文名を「投稿用表紙」に記入する． 英文題名は，冠詞，前置詞，接続詞の他は大文字で始める．

例：Statistical Property for Processing Gain of Lofargram Smoothing using Morphological Filter

# 著者名・所属

著者名（投稿者名）を漢字およびローマ字で「投稿用表紙」に記入する．

所属は，投稿者の勤務先等とし，機関名または会社名と適当な1つの部門名または部署名で表す．法人格の記載は任意とするが，記載する場合は略さない

論文・研究速報には，著者1名をCorresponding author（連絡先となる著者）とし，そのE-mailアドレスを掲載する．なお，Corresponding authorは，筆頭著者に限らず，継続して連絡できる者が望ましい．

# 英文アブストラクト

「論文」および「研究速報」のみ200 語以内（1語は平均5 ストローク）の英文アブストラクトをつける．

英文アブストラクトは本文の前に記述する．

# 本文

## 全般

1. 文章は簡潔明瞭で，和文の場合は平仮名まじりの現代仮名遣い，横書きとし，「である」体で，区切りに（，）文章の終わりに（．）をつける（（、）および（。）でない）．また，使用する英数字は原則として半角とする．
2. 漢字は原則として常用漢字とする．用語は文部科学省制定の学術用語，JIS 用語とし，その他の専門用語は本学会発行の「海洋音響用語事典」2)を参照するものとする．
3. 本文の章，節，項などの見出しは，原則として次の要領による．

1. 2. 3.

1.1 1.2 1.3

1.1.1 1.1.2 1.1.3

(1) (2) (3)

a. b. c.

なお，I.，II.，III.（ローマ数字）は必要な場合のみ使用を可とする．

## 数字・数式等

1. 言葉，用語，名称と慣用している数の表現には漢字を用い，その他はアラビア数字（半角）を用い，次の例に従う．

一つの　　二三の例　　5 隻の船　　0.23 15,000

1. 数式の番号は（1），（2），（3）のように通し番号とする．本文中に引用する場合はEq. (1)，Eq. (2)のように表示する．
2. 文章と同行中にある数式の書き方は，次の例による．

x+a(a+b)/(c+d) x/{y+(t/2)}

1. 文章と別行にある分数などを含む数式では，2行以上を用いて表現してもよい．



長い数式の場合は1 行に収まる長さ（コラム幅で7 cm）で区切って行を改める．この場合，＝，＋，－，÷，×の表示は次の行の一番前とする．



(1)



1. 数式に用いる諸記号の種別区分は，別紙1に従い，その種別区分などに十分な注意を払って記述する（指定がない場合は式中の文字はイタリック体となる）．
2. かっこの順序は，[ { ( ) } ]とする．
3. 単位は，原則としてSI 単位系とし，単位のかっこは，[　]とする．

## 文献

1. 本文中の引用個所の右肩に1），2），3）のように通し番号（半角のアラビア数字）を上付文字で挿入し参考文献があることを示すとともに，その参考文献の詳細を論文末尾に引用した順に一括して列挙する．
2. 参考文献の書き方は別紙21) による．また，論文集名等の略し方は慣用法による．

## 脚注

本文中に脚注は用いない．コメントや注釈は脚注とせず，参考文献と同じ扱いとする．

# 図・写真・表

図・写真・表は本文と別葉とする．

図・写真は投稿者の原稿をそのまま印刷するため，特に写真は鮮明なものを提出する．なお，表および説明文は，再度印刷用に打ち直すことがある．

図・表は鮮明なコピーまたは9.2 項に示す電子データとして作成する．

図・表の刷り上り寸法（横）は70 mmまたは140 mmのどちらかとする．

図・表の大きさは刷り上り寸法の約2 倍程度を見込んで作成し，特に図中の文字や記号の大きさに留意する．線の太さは刷り上りを考慮してやや太めにする．

図・写真・表は折込みとなるような大きなものは避ける．

図・写真の番号は区別せずFig. 1，Fig. 2 のように，また表はTable 1，Table 2のように通し番号をつける．図や表の内容を示す表題および説明文は英文を原則とする．

図・写真・表の番号および表題は，図・写真は図の下部に，表は上部に記述する(説明文も同様に掲載する)．

極端に縮小された図面，投稿者の指定が印刷上不適当と判断されるなどの場合，本紙編集委員会から原稿の修正を依頼することがある．

図・写真はオンデマンド印刷やコピー時に白黒になった場合も考慮して，図面を作製する．

# 投稿から掲載までの流れ

## 「論文」・「研究速報」の場合

1. 執筆：投稿用表紙，英文アブストラクト，本文，図・写真・表の原稿を執筆する．
2. 投稿：査読用原稿をPDF形式の電子データとして提出する．ワープロソフトなどで作成された本文や図・表等はまとめてPDF形式の1つのファイルとすること．提出方法は，9節に従う．原稿の受付日は，原則として原稿が本誌編集委員会に到着した日とする．
3. 査読：掲載の採否は，査読者のコメントを尊重し本誌編集委員会で決定する．内容によって，修正または投稿の種別変更を求めることがある．査読の方針については別紙3を参照のこと．
4. 原稿修正：投稿者は査読コメントに対する回答文の執筆および原稿修正を実施する．投稿者に返送後6ヶ月が経過しても再提出がない場合は，本学会への受付が取り消される．
5. 修正原稿投稿：査読コメントに対する回答文および修正などを実施した原稿のPDF形式電子データを（2）項と同様に提出する．その後，再査読が実施される．
6. 最終原稿の作成：編集委員会からの掲載可の連絡を受けた時点で，英文（アブストラクトを含む）に対する添削が実施されるので，添削結果を反映するように英文を修正して最終原稿を作成する．なお，①図・写真・表を挿入したい位置，②その他印刷上の希望事項（図・表の印刷時の寸法など）などがある場合は別途連絡すること．
7. 最終原稿の提出：最終原稿において，ワープロソフトなどで作成された本文や図・表の電子データは9節に従い提出する．なお，（2）および（5）項のようにPDF形式ファイルに加えて，ワープロソフト等で作成したソフトウェアのファイル形式で提出する．
8. 著者校正：校正刷り到着後，原則として24時間以内または指定日までに返送する．特に，数式，数値，図・表・文章の脱落，誤記誤植を中心に校正する．ただし，本文，図・写真・表の内容や表現の修正または変更を行ってはならない．
9. 掲載：執筆者には，掲載された学会誌の1号分のPDFを謹呈する．

## その他（随想・論評，レポート，講座，講演等要旨，解説，展望，紹介記事など）の場合

1. 執筆：投稿用表紙，本文，図・写真・表の原稿を執筆する．
2. 原稿の提出：原稿において，ワープロソフトなどで作成された本文や図・表の電子データは9節に従い提出する．
3. 著者校正：校正刷り到着後，原則として24時間以内または指定日までに返送する．特に，数式，数値，図・表・文章の脱落，誤記誤植を中心に校正する．ただし，本文，図・写真・表の内容や表現の修正または変更を行ってはならない．
4. 掲載：掲載記事等の別刷りを受け取る．ただし， 別途料金が請求される場合がある．

# 電子データによる提出

## 提出方法

作成した原稿ファイルをE-mailに添付して送信する．ただし，添付ファイルの総量が8 MBを超える場合は，ファイルを分割して複数回に分けて送信する．送信に際して，メール本文に著者名，題名，使用OS名，添付ファイルのリスト（ファイル名，内容，使用ソフト名）を付け加える．

## 作成方法

1. 投稿用表紙：学会ホームページ（https://www.masj.jp）から様式を取得し，記入する．
2. 英文アブストラクト・本文：ワープロソフトはMicrosoft Wordが望ましい．その他のソフトウェアで作成した場合は，テキスト形式（Plain Text）に変換してファイルを提出する．
3. 図・写真：

##### グラフ，ブロック図，イラストなどの線画（ベクトルイメージ）において，Microsoft Word，Excel，Power Point，Adobe Illustratorで作成したファイルはそのまま提出する．その他のソフトウェアで作成したデータはWMFもしくはEPSのファイル形式に変換して提出する．

##### a以外の写真やエコーグラムなどは，JPGまたはTIFF形式に変換して提出する．

##### オンデマンド印刷やコピー時に白黒になった場合も考慮して，図を作製する．

1. 表：Microsoft Word，Excelで作成された「表」はそのまま提出する．その他のソフトウェアで作成された「表」は，テキスト形式（Plain Text）に変換してファイルを提出する．
2. 論文・研究速報における査読のための投稿では，上記（2）～（4）で作成された原稿を1つのPDF形式電子データにして提出する．

# 投稿原稿の提出先

投稿原稿の提出先は，以下のメールアドレスとする．  
submit[at]masj.jp （[at]を@に変更してください．）

必ず海洋音響学会のホームページ（https://www.masj.jp）にて「海洋音響学会誌投稿規程」の最新版を確認すること．

**参考文献**

1. “海洋音響学会誌投稿規程,” https://www.masj.jp/society/regulations/tokokitei/ (2023年9月20日閲覧).
2. 海洋音響学会編，海洋音響用語事典，（海洋音響学会，東京，1999）．
3. 早坂寿雄, "円形振動膜の振動特性," 音響学会誌, **32**, 693-702 (1976).
4. D. E. Weston, "Wave-theory peaks in range averaged channels of uniform sound velocity," J. Acoust. Soc. Am., **68**, 282-286 (1980).
5. 早坂寿雄, "円形振動膜の振動特性," 音響学会誌, **32**(11), 693-702 (1976).
6. D. E. Weston, "Wave-theory peaks in range averaged channels of uniform sound velocity," J. Acoust. Soc. Am., **68**(1), 282-286 (1980).
7. 大賀寿朗, 山崎芳男, 金田　豊, 音響システムとディジタル処理(電子情報通信学会, 東京, 1995), p. 199-209.
8. L. L. Beranek, Acoustics (McGrawHill Book Co. Inc., New York, 1954), p. 180.
9. J. J. Zwislcki, "Analysis of some auditory characteristics," in *Handbook of Mathematical Psychology III*, R. D. Luce, R. R. Bush and E. Galanter Eds. (John Wiley, New York, 1965), Chap. 15, p. 66.
10. 森　和義, 横山智樹, 長谷川秋雄, 松田　稔, "周囲雑音を用いた無音物体探知における高分解能アレー信号処理の適用," 海音講論集, 17-20 (2003).
11. 森　和義, 横山智樹, 長谷川秋雄, 松田　稔, "周囲雑音を用いた物体探知におけるアレー信号処理の検討," 音講論集春季, 1323-1324 (2003).
12. 森　和義, 横山智樹, 長谷川秋雄, 松田　稔, "周囲雑音を用いた無音物体探知におけるMUSIC法の適用," 第24回超音波シンポジウム講演予稿集, 269-270 (2003).
13. M. J. Buckingham and C. L. Epifanio, "Acoustic Daylight Imaging in the ocean: experimental results," Proc. the 3rd European Conf. on Underwater Acoustics, **I**, 341-347 (1996).
14. 山田康博, 前田　怜, 土屋健伸, 遠藤信行, "三次元FDTD法を用いた湿度と温度による音場への影響の数値解析", 信学技報, US2003-106, 67-72 (2004).
15. 土屋　明, 澤本彰三, "音速によるプランクトン量の推定", 東海大学紀要海洋学部, **1**(1), 11-30 (2003).
16. 土屋健伸, “FDTD法による音波伝搬解析,” https://www.masj.jp/others/publicdata/data2011-06-06-fdtd/ (2022年6月30日閲覧).
17. R Core Team, “R: A language and environment for statistical computing,” https://www.R-project.org/ (2022年6月30日閲覧).

表1　投稿原稿の種類

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 原稿の種類 | | | 制限  ページ数\* | | 内　容 |
| 論文 | | | 12 | | 海洋音響に関連した諸問題の研究，海洋の観測，調査など，その内容が海洋音響の見地から学術や産業の発展に役立ち得る原著論文 |
| 研究速報 | | | 6 | | 海洋音響に関する研究速報，計測データ，測定技術の改良，提案など |
| その他 | 随想・評論 | 2 | | 海洋音響に関係する識者の論評，提言および雑感など | |
| レポート | 4 | | 国際会議，見学記およびこれらに類する報告 | |
| 講座 | 10 | | 海洋音響に関連する基本的事項を主題として，専門外の読者にも分かりやすく記述したもの | |
| 講演等要旨 | 4 | | 講演会，談話会，シンポジウム等で講演，発表および討議されたものの要旨 | |
| 解説 | 10 | | 海洋音響に関する特定の問題を主題として解説したもの | |
| 展望 | 10 | | 特定な問題の進歩に関する解説または進歩の著しい事項の現状紹介 | |
| 紹介記事 | 2 | | 文献リスト，図書紹介，製品紹介，施設紹介およびこれらに類するもの | |
| こぼれ話 | 2 | | 本会および本学会誌に対する意見および会員間の交流に役立つもの，海洋音響に関連するこぼれ話など | |
| その他 | その都度指定 | | 会記事など | |

\*制限ページ数を越える場合は1～2ページ以内とする．

140mm

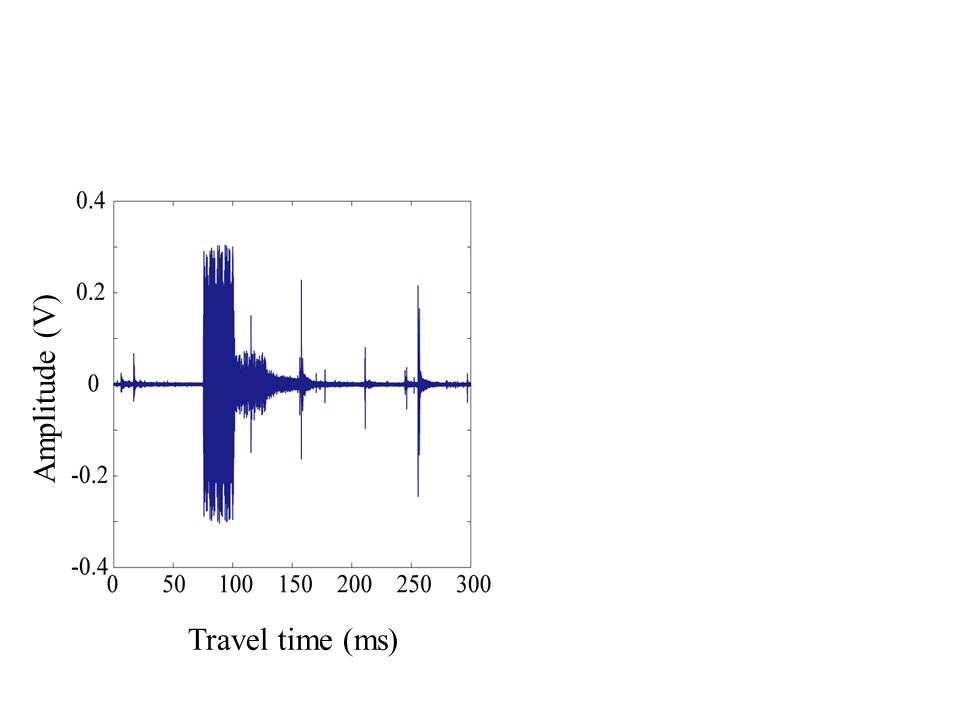


Fig. 1 Sample of received M-sequence signal.

70 mm